6.立花宗茂・誾千代を大河ドラマへ

次に、「立花宗茂・誾千代を大河ドラマへ」についてです。

「復活の大名と、戦う女城主」 戦国時代に彗星のごとく現れたヒーローとヒロイン、「立花宗茂と誾千代」。大河ドラマへいざ出陣！

戦国時代の末期、綺羅星の西国（さいごく）大名が割拠する九州に生まれた「立花宗茂と誾千代」、彼らの波乱に満ちた生涯は、清々しく力強いヒーローとヒロインの姿として、現代を生きる私たちにエールを送るドラマを見せてくれるでしょう。

関ケ原で西軍につき、大名から浪人へと転落するも、20年後に奇跡の旧領復帰を果たした｛復活の大名｝の大河ドラマ実現に向けて」。これは、「立花宗茂と誾千代」NHK大河ドラマ招致委員会のコメントです。

また、先月行われた「まつり新宮」には、勇壮な甲冑姿で登場した「道雪会」皆さんが、郷土の唯一無二のヒーローをたくさんの皆さんに知っていただきたい、大河ドラマ放映を実現してほしいとの強い思いで活動されておられることは、知事は十分に認識されていることと思います。

7月22日、テレビでゴールデンタイムに放映された「胸あつ戦国武将　ベスト20」では、なんと第1位に輝きました。

この番組は、平均年齢12歳が選ぶ順位で決まっていくもので、これからのニューワードや事象が予測できるものだと話題になっておりま

す。

　また、歴史シミュレーションゲーム「信長の野望」の公式サイトのアンケートでは、「歴史ドラマの主人公として、扱ってほしいと思う戦国武将」として、第１位は立花宗茂。

　さらに、ソフトバンク系列のネットメディアサイト、「ねとらぼ調査隊」では、「上司にしたい戦国大名」として、第１位はもちろん立花宗茂。

　どうでしょうか、いよいよ、その時を迎えつつあるとわたくしは感じております。

　特に、たくさんの方に「立花宗茂と誾千代」を知っていただくためには、戦略的な広報活動は重要だと思います。

　県のホームページはもちろん、県庁内での展示や広報活動、テレビやラジオなどの広報媒体の活用、さらには、東京のアンテナスポットでのコーナー開設も考えられます。

　文武両道で温厚、義に厚く、天下人（てんかびと）、豊臣秀吉に「西国（さいごく）無双」「剛勇鎮西一」と言わしめた立花宗茂、その人柄や波乱万丈の生き様は現代の私どもの十分な参考になるものと思われます。

　一方、誾千代の誾の字は、「慎み深く、よく人の話を聞く」との意味とは、まったく違い、雷神と周りから畏れられた「鬼道雪」の娘として、7歳から立花山の城主となり、立花城を守り抜いた誾千代。
また、宗茂の実父、高橋紹運。養父の立花道雪。取り巻く人物も大変に魅力的です。

　そこで、この「立花宗茂・誾千代を大河ドラマへ」についての、現在の

本県の取り組み、これからの大河ドラマ実現に向けて、どのように取り組んでいかれるのか、そして、知事の熱い決意をお聞かせください。

【服部知事の答弁】

県では、県内外のゆかりの市町の長、県議会議員、経済界、関係団体で構成する「立花宗茂と闇千代」NHK 大河ドラマ招致委員会で合意した事業計画を基に招致活動に取り組んでいます。

今年度は、5 月に「博多どんたく港まつり」のパレードに参加し、9 月に県庁ロビー展での PR を行ったほか、福岡・大分デスティネーションキャンペーンに向けた「立花宗茂と闇千代」のゆかりの地をめぐるモニターツアーに対する支援を行いました。

また、10 月には、私自身、招致委員会の皆様と NHK 福岡放送局長へ、先月は NHK 本社に出向き、要望活動を行ったところです。

NHK 本社では、「大きな困難に立ち向かい、そして絶対に諦めない立花宗茂の物語は、近年、激甚化・頻発化する災害により、被災された県民はもとより、全国民を勇気づける大河ドラマになる」と制作の意義、そして皆様の思いを強く伝えてまいりました。

今後も、招致委員会の皆様と、ねばり強く NHK への働きかけを行うとともに、来年春の福岡・大分デスティネーションキャンペーンの機会を捉えて、全国から訪れる観光客の皆様に、「立花宗茂と闇千代」について大いにアピールしていきたいと考えています。

このような取組により、「立花宗茂と闇千代」の認知度を向上させ、ファンを増やし、招致の機運が広がるよう、活動を更に盛り上げてまいります。